

もう、悩まない！『石原健のHOTEL LOVERS』

“知らないことは罪”、 “知らないことが悔しい”という意識を

～頭で考えずにまずアクション、興味を持って体で覚えることが大切なこと～

「もう、悩まない！石原健のHOTEL LOVERS」連載、毎週4週号はミドルマネージャーにスポットをあてている。まさに今、現場一線で活躍中のマネージャーたち。経営陣、部下にはさまれるという、心身ともに試練のポジションでもある。今回は1989年、山梨県富士吉田市にあるホテルハイランドリゾート（現ハイランドリゾート ホテル&スパ）に始まり、現在は株千代田が運営する「ホテル春日居」にて2019年12月より支配人として務める、ハム太郎こと橋本公太郎氏にご協力いただいた。周りが自然とサポートしたくなる、コミュニケーション力抜群の人物だ。



HOTEL 春日居
支配人

橋本公太郎氏

山梨県笛吹市春日居町小松 855
URL : <https://www.hotel-kasugai.com>
対談場所協力：
JPASTA terrace クイーンズスクエア横浜店

“高額な料金のフレンチは詐欺だ”
と豪語も

石原 本日は山梨から横浜まで対談のために駆けつけて下さいました橋本公太郎支配人をお招きいたしました。橋本支配人とは山梨の「ホテルハイランドリゾート」に籍中に、横浜のHSN（ホテル・セールス・ネットワーク）会に参加し出ま

た。会が開催される度にバイクに乗り山梨から横浜まで足を運ぶフットワークの良さでコミュニケーション能力が高く、営業マンとしても優れている人物という印象でしたね。始めになぜ、ホテル業界を選ばれたのか、お聞かせください。

橋本 はじめは旅行会社で添乗員を務めたいと思っていましたが、ホテル研修でホテルハイランドリゾートを訪れたときに出会ったベルキャプテンがかっこいいと思ったのがきっかけです。スマートな立ち居振る舞いやお客さまと接客される対応など、すべてがかっこよく見えたのです。それからです。添乗員からホテルマンへ志望を変更し、学生時代にそのホテルでアルバイトをしました。ホテルからもそのまま就職しないかと言われ、“ベルマンだったら入ります”と自分の希望を伝え実現したのです。ところがベルマンはわずか7カ月で終わり、料飲部へ異動、メインダイニングのフレンチで料飲サービスに携わりました。そのときです。高価なワイングラスを運んでいるときに20個ほど破損してしまう失態を起こし、改めて仕器・備品の扱い方の大切さを身に染みて感じた次第です。本格的なフレンチのレストランサービスは初めての経験でしたが、分からないことはその場で聞きなり調べるなりが当たり前だったので、サービスの先輩や厨房のシェフにいろいろと教えていただきました。

石原 昔はどのホテルのシェフもなかなか厳しく、気軽に話をしたり、教えてくれる存在でいいという印象が強く、そう簡単に踏み込めない領域でしたよね。

橋本 昔から“知らないことは罪”、“知らないことが悔しい”という意識がありましたので、知らないこと、分からないことはその場で聞くというのが当たり前でした。フレンチのサービスに配属されるまでは“高額な料金のフレンチは詐欺だ”と豪語していたものでした。というのは、1品の量がわずかな料理でもあれだけ時間をかければお腹がいっぱいになるからです。ところが実際に現場に務めてみて、手間暇かけてお料理を作っている姿やソースの奥深さ、ワインなどの奥深さを知るほどに、豪語していた考えはいつしか消え、私自身、自腹や先輩に連れられて料理やワイン、サービスの在り方など学びましたね。

10人誘って10人断られる、
そんな時代に

石原 以前は先輩が後輩を会食に連れて行ってくれたり、いろいろなことを教えてくれました。ところが、今の世代は誘ってもなかなか応じてくれないようですね。

橋本 なかなか難しいですね。私もスタッ



フを誘ってたまには会食でもと思うのですが、大半断られます。“とくに用事はないのですがいいです”という回答です。中には“残業代は出るのですか”などという声もあります。正直、10人誘って10人に断られる、そんな感じです。学校で学んだ知識や技術はあるのですが、そうではなく、頭で考えずにまずアクションを起こし、興味を持って体で覚えることが多様なお客さまに対応するホテルマンとして、今も昔も変わらない要素かと思えます。

石原 確かにさまざまな人と出会い、多様な経験をすることは大切なことです。橋本支配人の経歴をみてもブライダル部を経験されたり、ホテル業から転職されたホテル業に戻られるなど、変化に富んでいます。

橋本 富士急時代にブライダル部を経験した経緯からブライダルビジネス全般を扱おうと会社に転職したのですが、ホテルを含むさまざまなブライダル施設と仕事を続けている中で、改めて1つの事業ではなく、宿泊、宴会、料飲、営業など多様な業種が結集したフルサービス型のホ

テルがいいと確信したのです。そう思い、いろいろな方に“フルサービスのホテルに戻りたい”という思いを発信していたところ、ちょうど横浜のホテルから声がかかり願いがかなわないホテル業界に再就職することができました。私の性格なのか、自分の正直な思いを発信していると、なぜかいつも周りから助けられていた、そんな感じてしたので、人の助けを借りずに誰も知り合いがいないところで挑戦してみたいと思い岡山市内のホテルでホテル全体のセールスを体験いたしました。ところが、山梨にマイホームを建てた経緯もあり、山梨に戻り、現在の職場に勤めている次第です。

一番ではなく変わったことをしたい

石原 橋本支配人は昔から、なぜかこちらがフォローしたくなりますね。私の場合、一番ではないと気が済まないところがありますが、決して一番になることなく、誰とでも調和できる才能があります。

橋本 お誘いを受けたらそのお誘いをお断りすることはありません。一度は顔を出して、先々、お付き合いできる内容ででしたら、そのお誘いをご縁にお付き合いを広げていきます。いろいろな方と出会うことで、また何かのときにご紹介がで

るなどお役に立つことができます。おっしゃるようにならなりたいと思ったことはなく、変わったことをしてみたいと常に考えています。変わったことができたらいいなという発想のもと、それができたときに“これが出て良かったね”という感覚です。例えば山梨県には80を超えるワイナリーがあり、もちろん当館のワインセラーにも県産の多数のワインがストックされています。この中から甲州やベリーAなど12種類をチョイスしたワインテイスティングセットをご用意しており、この土地しか体験できない内容がいいねという感じですね。

石原 私だったらつい“私が考えた企画”と言ってしまってしまうでしょうね。すばらしいです。最後に一言、今後、取り組みたいことなどお聞かせください。

橋本 山梨県の東側のエリアにおける地域連携で観光事業の活性化を図っていきたく思います。宿泊施設だけではなく観光地や地元のレストランやさまざまな産業、そして二次交通としてのバスなど、業種を超えた連携を推進し、山梨の新たな魅力が発信できたらいいと思います。

石原 橋本支配人の多様な人脈を生かして、ぜひ、実現させてください。本日は遠路、ありがとうございました。

(株)ホスピタリティデザイン 横浜
代表取締役 石原 健氏



神奈川県横浜市中区元浜町 2-23-1-705
URL:<https://www.hospdy.com>

〈プロフィール〉1965（昭和40）年東京生まれ。桜美林大学経済学部卒業／日本ホテルスクール卒業／ホテル産業経営塾卒業（第一期生）。ホテル センチュリー ハイアット（現ハイアットリージェンシー東京）で4年のキャリアを積み、1989（平成元）年、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルの開業準備室に、第1期生として入社。開業後は主にセールスとして活動。39歳で販売担当部長となり、宿泊、宴会、婚礼、レストラン、イベント等の全ての販売を行なう。国内外からのVIPに対するおもてなしを行ない、4度にわたる皇室接遇担当の榮譽も授かる。また横浜青年会議所（JCI）のメンバーとしても活動し、2004年には100%出席賞を受賞。東日本大震災後、ウェスティンホテル 仙台へ赴任、セールス&マーケティング部長として、総支配人の不在時には代行も務め、3年2カ月間復興支援の一端を担う。2014（平成26）年、(株)ホスピタリティデザイン 横浜を設立、代表取締役後に就任、現在に至る。厚生労働省事業検討会委員、ホスピタリティ教育研究会会長、産業能率大学講師など、宿泊・サービス業界団体や学校、企業などで活躍中。